

第2章 中間評価の目的と方法

I 中間評価の目的

目標の評価については、実質的な改善効果を中間段階で確認できるよう、目標設定後5年を目途に中間評価を行うとともに、目標設定後10年を目途に最終評価を行うことにより、目標を達成するための諸活動の成果を適切に評価し、その後の健康増進の取組に反映させていくこととしている。

目標の現時点での達成状況や関連する取組の状況の評価し、目標達成のための促進・阻害要因等を検討することにより今後の課題を明らかにすることが中間評価の目的である。

II 中間評価の方法

元気県ぐんま21（第2次）の進捗を確認し、今後の着実な推進のための資料とすることを目的として、評価手法について検討を行い、開始5年目にあたる平成29年度（2017年度）に中間評価を行った。

5つの基本的な方向に基づいた具体的な目標66項目における中間実績値の分析評価や、進捗のために行われている取組・課題等について整理し、とりまとめた。

具体的な中間評価の方法を以下に示す。

<中間評価の基本的考え方>

目標に対する実績や取組の評価を行うとともに、その評価を通して値の動きや特徴的な取組について、とりまとめた。

これらの評価結果を踏まえ、今後の社会状況の変化等も見据え、重点的に取り組むべき課題を検討していく。

(1) 目標に対する実績値の評価方法について

全66項目の指標について、計画策定時の値と直近の値を比較し、分析上の課題や関連する調査・研究のデータの動向も踏まえ、目標に対する数値の動きについて、分析・評価を行った。

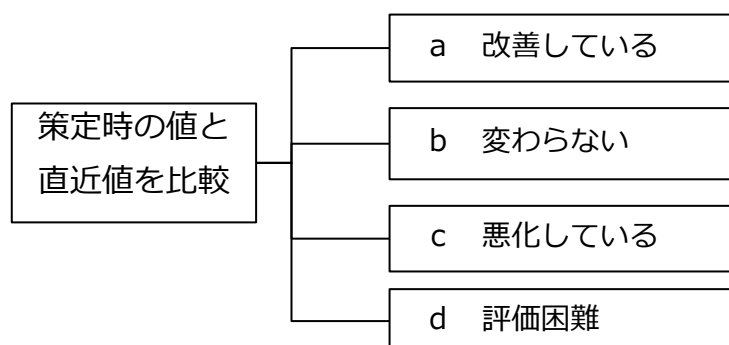
①直近値に係るデータ分析

- ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか分析した。
- ・ベースライン値と直近値の比較に当たっては、可能な限り有意差検定を実施した。
- ・全体の値だけではなく、性、年齢、地域別などで値に差がみられるものに

については、それらの特徴を踏まえた分析を検討していく。

②改善状況についての評価

- ・直近の実績値が目標に向けて、改善したか、不変であるか、または悪化したか等を簡潔に記載した。
- ・改善については、目標値に達しているのか、達成していない場合は、目標の到達に向けて順調に推移しているかなどの具体を可能な限り検討した。
- ・評価については、以下のとおり、a、b、c、dの4段階で評価した。



(2) 各指標の評価を踏まえた取組状況や今後の課題の整理について

- ①領域ごとに、指標の状況として、指標全体の総括評価を行った。
- ②評価困難となっている指標について、困難であった理由を明確にし、評価するためのデータソースの見直し、変更等について整理を行う。
- ③関連した取組については、取組の全体がわかるように、整理を行った。
 - ・ 具体の取組について、どの程度広がったかなどの評価を行う。
 - ・ 実施した取組について、指標の改善や悪化などの状況との関連を検討し、その結果を踏まえた重要な取組についての整理を行う。
 - ・ 数値目標に関して、具体的にどういうことに取り組めば目標が達成されるか、達成することが可能かについての整理を行う。
- ④今後の課題については、以下の点に留意して整理を行った。
 - ・ 実施した取組と指標の改善や悪化などの状況との関連を分析した結果などから、充実・強化すべき取組の整理を行う。
 - ・ 充実・強化すべき取組を行うに当たって必要となる事項（関連する事業、調査研究など）の整理を行う。
 - ・ 今後重要になると予測される課題や要因について、現状把握が必要なものがあれば検討していく。